

主 題：主に賞賛される女性  
聖書箇所：

先週東京で、NPO法人が主催する第一回目のベストマザー賞の発表があったと、そのような記事を見ました。これはお母さんたちの憧れや目標となる人を選ぶというもので、母子手帳を受け取ったお母さんたちによる投票で、芸能、政治、学術、経済、文化の五つの部門から5人が選ばれました。だれが選ばれたが大切ではないのですが、面白かったことは、その記事に載っていた読者のコメントなのです。このようなコメントがあって笑ってしまいました。「おかんの1位は自分のおかんに決まってるジャン！」と。この母の日、母親を讃える歌もたくさん発表されています。先日もラジオから流れてきた母親への感謝、愛を歌った歌の歌詞を聴いていて感動しました。子どもが自分の母親を自慢するというのはすばらしいことです。もっとこのような子どもたちが増やされることを願うばかりです。

ところで、この発表されたベストマザー賞、NPOの団体でも人でもなく、また、子どもたちでもなく、もし、主がベストマザーを選ぶとしたら、どのような母親を選ばれると思いますか？そのことについてごいっしょに神のおことばを見て行きます。人はいろいろな母親を誉めます。賞賛します。でも、問題は私たちの創造主であり私たちのさばき主である神が、どのような賞賛をお与えになるのかです。どのような母親を、どのような女性を神はお喜びになるのか、それが今日私たちが見て行きたいみことばの学びです。

聖書の中にはたくさんのすばらしい女性たちが記されています。その一人ひとりを見ることはできませんが、たとえば、皆さんがよくご存じのアブラハムの妻サラ、非常な信仰の持ち主でした。その信仰を神は大いに祝してくださいました。遊女であったと記されているラハブ、彼女の信仰も神は大いに祝されました。偵察に来た人たちを受け入れて、主が喜んでくださることを為しました。女預言者のデボラもいました。エリメレクの妻ナオミ、そして、モアズの妻ルツ、神は彼らを大いに祝し大にお用いになりました。エルカナの妻であり預言者サムエルの妻ハンナ、すばらしい預言者を神はこの世に送り出しました。ペルシャ王アハシュエロスの王妃であったエステル、彼女は勇気をもって自分の民の救いのために尽くしました。祭司ザカリヤの妻エリサベツ、そして、ヨセフの妻マリヤ、また、イエス・キリストが幼いときに、彼の誕生を主に感謝した女預言者のアンナ、イエスが愛されたベタニヤのマルタとマリヤ、ピリピの教会で用いられたルデヤ、新約聖書の中で唯一女の弟子と呼ばれたタビタ、アポロという雄弁な弟子を教えたアクラとその妻プリスカ、テモテの信仰に大きな影響を及ぼした祖母ロイスと母ユネケ、このようなリストは続きます。彼らは主を愛し、主に従ったすばらしい女性たちでした。彼らはみな、主に賞賛される女性たちでした。なぜなら、彼らは私たちと同じように罪を犯した罪人でしたが、彼らは主を恐れる者たちだったから、主を心から愛する者たちだったからです。主に対して従順に歩み続けようとした人たちだったから、主は彼らの信仰を見て大いに祝されたのです。彼らは隠れたところを見ておられる主を常に覚えて、その主に信頼を置いて歩み続けたのです。はっきりしていることは、主を心から愛していること、心から畏敬の念を抱いているということは、その人のことば以上に、その人の生き方、行ないが明らかにするのです。私たちがみことばから繰り返し教えられていることは、何を言うかよりもどのように生きるかが大切だということです。1ペテロ3：2，4でペテロはこのようなことを言います。「それは、あなたがたの、神を恐れかしこむ清い生き方を彼らが見るからです。」、彼らが何を言うかを聞くことは日常茶飯事でした。もちろん、語ることに勇気が必要です。でも、大切なこと、神が喜ばれることは、何を語るかよりもどのように生きるかです。しかも、「神を恐れかしこむ清い生き方」と、彼らのその「清い生き方」は何からもたらされるのか、その動機は「神を恐れかしこむ」から、神を心から敬っているから、神のことを心から尊敬しているから、それがその「清い生き方」として出てくるのだと言います。それこそ、神の御前に価値のあるものだと4節で教えます。「：4 むしろ、柔和で穏やかな霊という朽ちることのないものを持つ、心の中の隠れた人がらを飾りにしなさい。これこそ、神の御前に価値あるものです。」と。外側よりも内側、どのように私たちが生きて行くかなのです。

今日、私たちが見て行きたいことは、最初に話した通り、主に賞賛される女性の二つの特徴です。このような女性を神は賞賛される、このような女性を神は大いに喜ばれるのです。

☆主に賞賛される女性とは？

1. 主を愛する女性

言い方を変えると、この女性は聖書の教えに忠実な女性です。女性だけではありません。すべての人に神が望んでおられることは同じことです。主のみことばに忠実に歩み続けて行くことです。主がお喜

びになる人、すなわち、霊的な人、信仰のおとな、それは間違いなく神のおことばである聖書の教えに忠実に従い続けている人です。なぜなら、主を愛する人は間違いなく主がお語りになったことに従って行きたいと願うからです。当然のことです。そして、その人がそのように歩いて行くときに、その人の信仰は間違いなく成長して行きます。ですから、主を愛する人は霊的な人です。また、そのような霊的な人になりたいと願って聖書に従おうとしている人です。ここにおられるどなたも、年齢に関係なく、信仰歴に関係なく、みな私たちは信仰の歩みにおいてその途上にあります。まだ、私たちはゴールに到達していないのです。まだ地上にあってその信仰の歩みを継続しています。より神が喜んでくださる者へと変えられて行くことを願って、より信仰的なおとなになるように、より霊的な人になるようにと私たちは歩み続けるのです。だから、教会のリーダーの資質のところにもこのようなことが記されています。婦人の執事の条件として、Iテモテ3：11「**婦人執事も、威厳があり、悪口を言わず、自分を制し、すべてに忠実な人でなければなりません。**」と、すべてに忠実な人でなければならない、だから、霊的な人、神を愛している人なのです。それゆえ、神が大いに喜ばれる人なのです。あらゆる悪を避けて神の前に正しく歩み続けて行く、神のメッセージ、神のみことばである聖書の教えに従順な人、そのような人を神はお喜びになるのです。なぜなら、それこそまさに神を愛している人の生き方だからです。私たちがいろいろな歌で「神さま、あなたを愛しています」と歌っても、神はそれを聞かれてもしかすると耳をふさいでおられるかもしれません。神の関心は何を言うかではなく、どのような心を持ってどのように歩いて行くかです。そのことはみことばが繰り返し私たちに教えてくれていることです。

今からごいっしょに見て行きたいのはIテモテ2：9-14です。女性に対して、母親に対しての教えはたくさんあります。そのすべてをこの時間に見ることはできないので、すでに、皆さんが歩いておられることをもう一度確認して、その人はどうぞそのように続けて歩いてください。もし、そうでなければ、今神が示してくださるように、今日から歩み始めるといいのです。その意味からも私たちはどのような歩みが神に喜ばれるのか、神を愛する歩みとはどのようなものかをこのみことばから見て行きます。二つのことをパウロは私たちに教えています。一つは、その女性の身なりに関する教えです。もう一つは、行ないに関する教えです。

#### ◎神を愛する歩みとは？ Iテモテ2：9-14より

(1) **女性の身なりに関して**＝つまり、パウロが言うことは、あなたたちは身なりにおいて人々の模範になりなさいと言っているのです。9-10節を見ると「**同じように女も、つつましい身なりで、控えめに慎み深く身を飾り、はでな髪の色とか、金や真珠や高価な衣服によってではなく、：10 むしろ、神を敬うと言っている女にふさわしく、良い行ないを自分の飾りとしなさい。**」と言います。ここには三つの名詞が出て来ます。

「**身なり**」「**控えめ**」「**慎み深く**」と。この三つのことばが教えていることは、ふさわしい服装をしなさいということです。この「**つつましい身なり**」とはキチンをした身なり、キチンをした装いです。「**控えめ**」はまさにこのことばはつつましさがあるようにということです。「**慎み深く**」というのはしっかり節度のある、分別のあるということばです。ですから、パウロはこの三つのことばを使って、ふさわしくない不相応な服装をしてはならないと言っているのです。なぜなら、この9節を見ると、その悪い例が記されています。「**はでな髪の色とか、金や真珠や高価な衣服によって**」身を飾るなど言うのです。そのような服装で来てはいけないと言うのです。確かに、このようなはでな髪の色をしている人たちがその当時いたのです。多くの人は売春などに関わっている人たちです。また、「**金や真珠**」、なぜ、そのようなものを身に付けるのか、彼らは自分の富や美しさを見せびらかそうとするのです。この「**真珠**」は宝石の中でも最も価値があって金の3倍の値打ちがあったと言います。ある人たちはこの真珠を髪を飾るために、指に、また、イヤリングとしても使い、衣服の飾りとして、履物の飾りにもしていたと言います。ここで言われている「**高価な衣服**」とは7000デナリくらいの洋服です。7000日分の額、1デナリを1万円と計算すると、その7000倍7000万円、考えられないような額です。もちろん、そのようなものを持っている人は多くはいなかったはずですが、そのようなものを持ってやって来ることによって、自分が人々の前で認められるからです。その当時、奴隷が500から800デナリで売買されていました。しかも、パウロが生まれ育ったタルソの町は縫製で中心で、その質は当時の世界で最高と評価されていました。パウロはそのことをよく知っていたのです。そこでパウロが女性たちに教えることは、どのような身なりをもってあなたたちは主を礼拝するために集まって来るのですか？ということばです。服装が礼拝の妨げになることもあるのです。自分の宣伝、自分を見せびらかすことが動機なら大きな間違いです。また、他の人の心に礼拝の妨げをもたらすことも確かにあります。特に、異性に性的な誘惑を与える可能性もあるのです。ですから、パウロはあなたたちは教会に集まるとき身なりにおいて人々の模範になるようにしなさいと言うのです。ジョン・マッカーサー博士はこのように言います。「女性は礼拝のために自分を適切に整えなければなりません。その重要な準備の一部は適切な衣類を着るという外見を含んでいる。それらはだらしない衣服や自分を見せびらかすための洋服であってはならない。」

と。だから、一人ひとりが考えなければいけないのです。もちろん、男性も含めてそうですが、主を心から礼拝するために何が最善なのかです。気を付けなければいけないことは、誘惑を与えるような服装は礼拝するのにふさわしくないことです。ですから、先ずパウロは女性たちに、どのような身なりをもって主を礼拝しようとするのか、自分の身なりをしっかりと見なさい、どのような思いでそのような衣服を着ようとするのか、その動機をしっかりと探りなさい、心から主を礼拝するためにしているのかどうかと言うのです。

(2) 行ないに関して＝行ないにおいても模範になりなさいと言います。10節に「**神を敬うと言っている女にふさわしく、良い行ないを自分の飾りとしなさい。**」とあり、(a) 良い行ないをしなさいとパウロは教えるのです。コロサイ1：10には「**また、主にかなった歩みをして、あらゆる点で主に喜ばれ、あらゆる善行のうちに実を結び、神を知る知識を増し加えられますように。**」とあります。ですから、一人ひとりが考えなければいけないことは、私のすることすべてが「**主にかなった歩みをして**」いるかどうか、言い方を変えるなら、主が喜んでくださることをしているかどうかです。だから、「**あらゆる点で主に喜ばれる**」かどうか、そのことをしっかりと考えなさいと言うのです。また、よくご存じのローマ12：2でも「**この世と調子を合わせてはいけません。**」、どのように生きるべきなのか、「**いや、むしろ、神のみこころは何か、**」、そのことを考えなさい、それはどういう意味か？「**すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知り**」なさい、考えなさい、何が神に喜ばれることなのか、何が神に受け入れられることなのかを考えて、そのように生きて行きなさいと言うのです。ですから、明らかにこの箇所だけでなく、しかも、女性にだけでなく、すべての信仰者にパウロが教えていること、みことばが教えていることは、良い行ないを為して行くことです。特に、パウロはこのIテモテ2章でそのことを女性たちに対して言うのですが、10節に「**神を敬うと言っている女にふさわしく、**」とあります。「**敬う**」とは神に対して畏敬の念をもつということ。神を恐れるという意味です。隠れたことを見ておられる神のことを常に覚えながら、日々歩んで行きなさいと。神が喜んでくださることをあなたは率先して為して行きなさいと言うのです。行ないに関してパウロが先ず言うことは、良い行ないをしなさいということ。もう一つ、彼は付け加えています。(b) 従う者になりなさいということ。11-12節「**女は、静かにして、よく従う心をもって教えを受けなさい。：12 私は、女が教えたり男を支配したりすることを許しません。ただ、静かにしていなさい。**」、パウロは何を言っているのでしょうか？一つは、男女が集まっている公の集会において女性が教師になることを禁止しているのです。11節に「**教えを受けなさい。**」とあります。このようなメッセージは当時の人々にとって非常にショッキングなメッセージでした。なぜなら、ユダヤ人の社会においてもギリシャ人の社会においても、女性は男性と同じようには見られていませんでした。平等ではなかったのです。物のように扱われていました。パウロが言っていることは「**教えを受けなさい。**」です。パウロは明らかに男女は神の前に平等なのだ、神は女性をそのように造られた、決して世の中で行なわれているように差別をしてはいけない、それは間違っているのだと言うのです。

そして、そのことを教えた上でパウロは女性には違った働きがあると言います。そのことをこれから見て行きますが、先ず、パウロは公にみことばを教えるという働きは女性に与えられた働きではないと言っています。しかし、現実には今のキリスト教会を見ると女性牧師が存在しています。このみことばをどのように理解するのかです。その人たちはこのように言います。この「**静かに**」ということばは「穏やか、穏やかな心、柔和、優しい」という意味があると、確かに、そのような意味もあります。ですから、彼らは教えることを禁止しているのではなく、そのような心をもって行なえばいいのだということをパウロは言っていると言います。しかし、おかしいことは、このみことばを順に見て行くと、そのようなことを言っていないことは明らかです。なぜなら、このことばは同時に「沈黙」という意味をもったことばです。そして、明らかにここではその意味をもって使われていることは確かなことです。よく見てください。「**静かにして、よく従う心をもって教えを受けなさい。**」とあり、教えをしなさいではなく「**教えを受けなさい**」と言います。また、12節では「**女が教えたり男を支配したりすることを許しません。**」とあり、パウロが言いたいことは、神の前に平等ではないということではなく、違う務め、違う責任、違う役割が与えられているということです。この「**静かにしている**」ということは教えに関連したこととして使われています。ですから、教えに関して、男女が集まっているこのような公の場において女性が前に立って語るというのは、聖書を見る限り、それは間違っていると教えるのです。ある人はこのように言います。でも、うちの教会には男性がいらないから仕方がなく…と、そのようなケースは世界中で起こっています。でも、みことばに沿って行なうなら、このような場には男性が立つのです。でも、うちの教会ではこの女性だけが訓練を受けて来た、それなら、その週の間プライベートに男性にみことばを教えればいいのです。そして、その男性が立ってみことばを語ることです。

そのように教師になることを禁じているし、また、12節では男性の上に立つことを禁止しています。「**男を支配したり**」とあるこの「**支配**」ということばです。これは権力を奮うとか上に立つという意味をも

ったことばです。そのようなことはだめだと言っているのです。かえって、「よく従う心をもって教えを受けなさい。」と言うのです。つまり、女性はその男性のリーダーシップに従って行きなさいと、そのことをパウロは教えたいために13-14節で創造のことに話を展開して行きます。「**アダムが初めに造られ、次にエバが造られたからです。:14 また、アダムは惑わされなかったが、女は惑わされてしまい、あやまちを犯しました。**」、創造の順位とその役割を言います。先ず男性が造られて、助け手がいなかったために女性が造られたと、その創造の順序をしっかりと覚えなければいけないと言います。そして、もう一つ、14節ではアダムとエバの罪のことが言われています。彼女が惑わされた、彼女が誘惑を受けたのです。つまり、パウロはこのみことばを上げることによって、女性にはしっかりした男性のリーダーシップが必要だと言っているのです。そのリーダーシップに従って行くことが必要だと。ですから、みことばを見て明らかなことは役割が違うということです。女性が劣っているというわけではありません。すばらしい女性たちは溢れています。しかし、みことばが教えていることは、教会という神がお定めになった機関において、彼らの行ないは「仕える」という大切な役割を果たして行くことです。男性の上に立って彼らを支配したり彼らの上に権力を奮うということは、聖書が教えていることではありません。

このようなことをしなさいとパウロは言います。10節に「**飾りとしなさい。**」とありますが、この「しなさい」という動詞は実はここに出て来たのではなく、8節から出て来ています。「**ですから、私は願うのです。男は、怒ったり言い争ったりすることなく、どこでもきよい手を上げて祈るようにしなさい。**」、「**祈るようにしなさい。**」とこの動詞をここでも同じように使ってこのように訳したのです。パウロが言っていることは、8節の男性に対する教えもその通りであるし、9節からの女性に対しても、このように彼は使徒としてその権威を用いてこの命令を与えているのです。これは使徒パウロがあなたたちに教えるのだと言います。女性たちよ、あなたたちは教会にあって、信仰者たちの中にあって、すばらしい模範になって行きなさい、神を愛する者としてすばらしい模範を示して行きなさい、身なりにおいても、そして、あなたの行ないにおいても人々の模範となりなさいと言うのです。テトス2:3-7にはこのように教えられています。「**同じように、年をとった婦人たちには、神に仕えている者らしく敬虔にふるまい、悪口を言わず、大酒のとりこにならず、良いことを教える者であるように。:4 そうすれば、彼女たちは、若い婦人たちに向かって、夫を愛し、子どもを愛し、:5 慎み深く、貞潔で、家事に励み、優しく、自分の夫に従順であるようにと、さすことができるのです。それは、神のことばがそしられるようなことのないためです。:6 同じように、若い人々には、思慮深くあるように勧めなさい。:7 また、すべての点で自分自身が良いわざの模範となり、教えにおいては純正で、威厳を保ち、**」、つまり、パウロは年配の女性に対しては、あなたたちは若い人々の前でしっかり模範を示して行きなさい、また、若い人たちにも同じことが言える、あなたたちも後から続いて来る人たちの模範になって行くようにと言うのです。ですから、信仰者の生き方というのは、私たちの後に続いて来る者たちに私たちは模範を残しているのです。どのように信仰者として生きるべきなのか、その模範を残しているのです。聖書が私たちに、女性の皆さんに教えていることは、神を愛することによってすばらしい模範を残して行きなさい、そういう人として成長して行きなさいということです。神を愛する人、そのような人になって行くように、そういう人を神は祝されると言います。

## 2. 家族を愛する女性

旧約聖書の箴言のみことばを見てください。31:11-31です。

- :11 夫の心は彼女を信頼し、彼は「収益」に欠けることがない。
- :12 彼女は生きながらえている間、夫に良いことをし、悪いことをしない。
- :13 彼女は羊毛や亜麻を手に入れ、喜んで自分の手でそれを仕上げる。
- :14 彼女は商人の舟のように、遠い所から食糧を運んで来る。
- :15 彼女は夜明け前に起き、家の者に食事を整え、召使の女たちに用事を言いつける。
- :16 彼女は畑をよく調べて、それを手に入れ、自分がかせいで、ぶどう畑を作り、
- :17 腰に帯を強く引き締め、勇ましく腕をふるう。
- :18 彼女は収入がよいのを味わい、そのともしびは夜になっても消えない。
- :19 彼女は糸取り棒に手を差し伸べ、手に糸巻きをつかむ。
- :20 彼女は悩んでいる人に手を差し出し、貧しい者に手を差し伸べる。
- :21 彼女は家の者のために雪を恐れぬ。家の者はみな、あわせの着物を着ているからだ。
- :22 彼女は自分のための敷き物を作り、彼女の着物は亜麻布と紫色の撚り糸でできている。
- :23 夫は町囲みのうちで人々によく知られ、土地の長老たちとともに座に着く。
- :24 彼女は亜麻布の着物を作って、売り、帯を作って、商人に渡す。
- :25 彼女は力と気品を身につけ、ほほえみながら後の日を待つ。
- :26 彼女は口を開いて知恵深く語り、その舌には恵みのおしえがある。
- :27 彼女は家族の様子をよく見張り、怠惰のパンを食べない。
- :28 その子たちは立ち上がって、彼女を幸いな者と言い、夫も彼女をほめたたえて言う。
- :29 「しっかりしたことをする女は多いけれど、あなたはすべてのまさにまっすぐな。」と。

**:30 麗しさはいつわり。美しさはむなし。しかし、主を恐れる女はほめたたえられる。**

**:31 彼女の手でかせいだ実を彼女に与え、彼女のしたことを町囲みのうちでほめたたえよ。**

28-29節には子どもたちが母親をほめたたえる様子があります。夫たちがその妻をほめたたえていることが記されています。家族が母親をほめるのです。神も同じように喜んでくださいます。その理由がこのみことばに記されています。11節、彼女が賞賛される一つ目の理由は、**(1) 彼女は良き管理者**です。浪費家ではなく無駄がない、しっかり家計を握って無駄をしない、そのような女性です。二つ目に記されていることは12節、**(2) 彼女は夫にとってすばらしい助け手**なのです。つまり、この女性が家族から神から賞賛されたのは、彼女はあることをしっかり覚えてその目標を果たそうとしていたからです。それは夫のことに心を配り夫のために生きて行こうというのです。夫がどのような状態のときでも彼を励まして彼を支えて行こうと、そのことを彼女は心に決めていたのです。皆さん、よく覚えておられるように、どうして男女が造られたのか、神は男性を造りましたが、動物の中に彼にふさわしい助け手がいなかったから助け手を造られました。創世記2:18「その後、神である主は仰せられた。「人が、ひとりであるのは良くない。わたしは彼のために、彼にふさわしい助け手を造ろう。」。助け手として、男性には彼女のサポートが必要なのです。そのために神が女性をお造りになったからです。助け手としてどのように歩んで行くのでしょうか？(a) **夫を心から愛すること**です。12節「**生きながらえている間、夫に良いことをし、悪いことをしない。**」、なぜなら、彼を愛しているからです。彼が何をするかではありません。その彼に対して良いことをして行こうと言います。Iペテロ3:6を見るとアブラハムとサラのことが記されています。「たとえばサラも、アブラハムを主と呼んで彼に従いました。…」と、創世記18章にはそのことが詳しく記されていますが、サラは「アブラハムを主と呼んで彼に従いました。」とあります。この「主」とは神を指しているわけではありません。「主人」だということです。彼女は自分の夫を自分の「主人」として従って行ったというのです。サラは夫を愛していたからです。このような愛は神によって与えられます。みことばが私たちに教えることが余りにも現実からかけ離れていると思うことがあります。でも、感謝なことに、そのような人に神はあなたを変えようとしておられるのです。みことばは私たちから希望を奪うのではなく、希望をくれるのです。このような人に神は私たちを変えて行ってくれると。二つ目に言えることはこの女性は(b) **夫を尊敬しています**。「**良いことをし、悪いことをしない。**」、ゆえに、彼は彼女に信頼を置くのです。彼を愛するゆえにそのようにし、彼を尊敬するゆえに彼に対して良いことを行なってゆくのです。このことはエペソ人への手紙5章の後半にこのようなことが記されています。5:33b「**妻もまた自分の夫を敬いなさい。**」と。パウロの命令は「夫を尊敬しなさい」とことです。なぜなら、女性にも男性にも神は大きな務めをくださった、特に、男性にはその家庭を治めて行くという大きな責任が与えられています。家族をしっかり治めて導いて行くというのは大変なことです。世の中でどんなに成功するかより大変なことであり、また、大切なことです。ですから、妻はその夫を尊敬し、夫を思いやって理解し必要が満たされてその責任を果たして行けるように祈り支えて行くことが必要なのです。この中の男性で祈りを必要としない人がもしいるとするなら、そこには問題があります。みな祈りを必要としています。私たちが働きができることは皆さんの祈りがあるからです。神のあわれみのゆえに。家庭においても同じです。たくさんのみことばを知っているから子どもたちが正しくなるという、そのような保証はどこにもありません。言えることは神のあわれみだけです。ですから、「夫を尊敬しなさい」と言ったときパウロが望んでいることは、男性に与えられた責任をしっかり理解した上で、その助け手としてサポートしてあげなさいということです。けんかをするときは必ず自分のことを主張します。私がこれだけやっているのに…、これだけ思いやっているのに…、私が…と。大切なことは自分のことより相手のことを優先することです。先の「愛」と同じように確かに難しいことです。でも、このような命令を私たちが聞くと、私たちは期待します。そのような人に神は私たちを変えようとしておられると。大切なことは、神が私に望んでいることはどのような夫であったとしても、私は彼を尊敬して行こうと、なぜなら、神を愛しているからです。神が喜ばれることをしたいからです。すべてそこに戻って行くのです。夫を尊敬すること、彼のために何ができるのか、夫が神に喜ばれる一家のかしらとして成長し、家庭を正しく良く治めて行くことができるように、妻は祈ることが大切なのです。

箴言31:25-26を見てください。「**彼女は力と気品を身につけ、ほほえみながら後の日を待つ。:26 彼女は口を開いて知恵深く語り、その舌には恵みのおしえがある。**」と、何を言っているのでしょうか？ソロモンが教えることは、女性の皆さん、あなたたちは神の知恵をいただいて男性たちに良きアドバイスを与えていますか？ということです。子どもたちの前で父親を非難することを聞いたことがあります。「うちのお父さんは……だから、」と、それは決して神が喜ばれることではなく、また、何の益ももたらしません。妻のアドバイスは非常に大切なことです。皆さんは神から知恵をいただいて、彼を非難するのではなく、彼にとってその働きがますます進んで行くように、正しい知恵のあるアドバイスを与えているか

どうかです。助け手です。励まそうとするのです。そこに座っている審判員ではないのです。お父さんの生き方を見てジャッジする、そのような人ではなく彼を助け励ますのです。

私たちがよく聞くことですが、うちの主人がもっとこういう人だったらうちの家庭も変わるのにと。よくその家庭の話聞いてみると、残念ながら女性が男性にリーダーシップを与えていないケースが多いのです。女性の方が理解できる、行動力がある、そうすると、主人に相談するにも時間がないからすぐに決めてしまう、それでうちの主人はリーダーシップがないと非難するのです。男性がリーダーシップを発揮する機会を与えていないのです。心配しなくてもいいのです。すべて神の御手のうちにあります。あなたに神が望んでおられることは、夫のリーダーシップにしっかり従って、夫がリーダーシップを発揮できるように彼を励ましてあげなさいということです。良き助け手なのです。神が与えられたその務めを男性がしっかり果たして行けるように、その助けをしなさいと言います。スポーツではよく結果オーライと言いますが、神の前ではそれは通用しません。神はしっかりあなたの務めを果たしなさいと言われるのです。それが忠実であると言うことです。

そして、もう一度箴言に戻って、この人は(3) 勤勉な人です。13-19節に彼女が勤勉であるゆえに家族から誉められている様子が記されています。家族のことを優先して家族のために喜んで犠牲を払おうとしています。多くのお母さんがそうです。また、家庭の外においても勤勉です。家族のために一生懸命働いていると言います。しかし、私たちが覚えることはこの13節から家庭を治める責任が記されていることです。というのは、15節に「**彼女は夜明け前に起き、…**」とあり、何をすべきかしっかりその責任を果たしています。「**家の者に食事を整え、召使の女たちに用事を言いつける。:16 彼女は畑をよく調べて、それを手に入れ、自分ががせいで、ぶどう畑を作り、:17 腰に帯を強く引き締め、勇ましく腕をふるう。**」と、つまり、彼女はその家庭をしっかりと正しく保って行こうと心がけて、そのために労しているのです。

「**彼女は家族の様子をよく見張り、怠惰のパンを食べない。**」と27節にあります。もう一つ、(4) 子どもたちが主に仕え、主のために生きる人となって行くように訓練をすること、それが母親の大きな責任です。最初に話したように、パウロはテモテに関して彼の祖母と母、ロイスとユニケのことを話しています。テモテの信仰は彼女たちに負うところが大きかったのです。彼女たちは子どもたちとの時間を通してしっかり神のことを教えてきたのです。箴言1:8でソロモンはこのように言います。「**わが子よ。あなたの父の訓戒に聞き従え。あなたの母の教えを捨ててはならない。**」と。つまり、母がずっと教えて来たからです。妻の責任、それは家庭を治めるという大きな責任が与えられた男性にとってすばらしい助け手になることです。確かに、責任は男性にあるけれど、あなたたちにもこの神が託して下さった子どもたちが神に従って行く者になるように、しっかりみことばを教えて行きなさい、その責任があると言うのです。

あと簡単に二つ見ます。箴言31:20-25を見ると、この女性は自分を犠牲にする(5) 自己犠牲の人です。「**彼女は悩んでいる人に手を差し出し、貧しい者に手を差し伸べる。**」と、自分のことよりも先ず人々の必要に関心を持ちそれを優先しています。21節、25節では家族の必要に関心をもっていることが記されています。「**彼女は家の者のために雪を恐れぬ。家の者はみな、あわせの着物を着ているからだ。**」

「**彼女は力と気品を身につけ、ほほえみながら後の日待つ。**」、そして、22節のことばが出て来ます。「**彼女は自分のための敷き物を作り、彼女の着物は亜麻布と紫色の撚り糸でできている。**」と、多くのお母さんはこの通りです。自分のことよりも家族のこと、自分のことよりも他の人のことを考えます。そして、最後の26-27節を見ると、この女性は(6) みことばを实践するのです。「**彼女は口を開いて知恵深く語り、その舌には恵みのおしえがある。:27 彼女は家族の様子をよく見張り、怠惰のパンを食べない。**」と。口から出ることが非難や悪いことではなく、神のすばらしい恵みなのです。彼女はみことばを实践するのです。

確かに、彼女は家族から賞賛されます。なぜなら、彼女は家族を愛していました。夫に信頼される人です。勤勉な人です。自分を犠牲にする人です。そして、みことばを实践する人です。だから、この家庭には大きな祝福があります。23節には「**夫は町囲みのうちで人々によく知られ、土地の長老たちとともに座に着く。**」とあり、その町にあってリーダーたちの中でともに働く者になる、つまり、夫がリーダーとして用いられて行くようになると言うのです。なぜなら、妻の助けがそこにあるからです。そして、最後に、その家族からの賞賛が届きます。なぜ、彼らが彼女を賞賛したのでしょうか？31節「**麗しさはいつわり。美しさはむなし。しかし、主を恐れる女はほめたたえられる。**」、ここにカギがあったのです。なぜ、彼女はこのように家族を愛して生きたのでしょうか？彼女は神が与えて下さったその責任をしっかり理解し、その責任を果たそうとしたからです。それは彼女が神を愛し神を恐れていたからです。そして、そのような生き方が家族にすばらしい祝福をもたらしたのです。主を恐れて歩んでいる人は必ず主がお用いになります。神は私たちのような不完全な者でも私たちが神のみことばに従って行こうとするなら、神は私たちを使って下さって神のすばらしさを示して下さるのです。だから、彼女はほめたたえられるのです。年を重ねて行くとうるわしさも美しさもだんだん変わって行きます。しかし、主を恐れる

女性はほめたたえられるのです。家族から、そして、神から。

今日、私たちが見て来たことは、神が賞賛される母親とはどのような母親なのか、神が賞賛される女性とはどのような女性なのか、信仰者すべてに共通していること、それは主を愛することです。母親に対してもそのことをみことばは教えてくれました。主を愛すること、それは主のみことばに従って行くこと、同時に、神はあなたにすばらしい務めを与えてくださいました。結婚を許されたのならその家庭において大切な務めがありますから、その務めを神の助けによって果たして行きなさい、家族を愛する者として歩んで行きなさい、そのとき、神はその家庭にすばらしい祝福をもたらすと言います。いかがですか？皆さんは主を恐れる女性として歩んでおられますか？どうぞ、そのような女性として歩み続けてください。神が賞賛される女性は主を恐れる女性です。